

11月18日は「土木の日」です

土木というと、道路、河川、港湾、鉄道工事や災害復旧工事などがありますが、現在では情報化施工を活用したi-Construction・ICT土工が推奨されており、その取り組みも急速な展開を見せています。

ICTの全面的な活用(ICT土工) ~ i-Construction(アイ・コンストラクション)~

国土交通省では、「ICTの全面的な活用(ICT土工)」等の施策を建設現場に導入することによって、建設生産システム全体の生産性向上を図り、もっと魅力ある建設現場を目指す取組であるi-Construction(アイ・コンストラクション)を進めています。

ICT土工とは以下に示す施工プロセスの各段階においてICTを全面的に活用する工事の事です。



ICT土工の実施状況

参考:国土交通省「別紙 i-Constructionの成果と来年度に向けた取組について」

2016年度は約1620件においてICT土工対象工事として発注し、**584件**において実施

2016年度ICT土工実施件数

	発注者指定型	施工者希望型	施工者希望型	合計
ICT土工実施件数	66件	220件	298件	584件

受注者との協議で実施した件数を含む

<参考>発注の基本方針
発注者指定型・予定価格3億円以上の大規模な工事は、ICT土工の実施を指定し発注。施工者希望型:3億円未満で土工量20,000㎡以上の工事は入札時に総合評価で加点。施工者希望型:規模に関わらず、受注者の提案・協議によりICT土工を実施可能。

ICT人材育成の強化(受・発注者向け講習・実習を集中実施)

施工業者向け講習・実習

目的 ICTに対応できる技術者・技能労働者育成

発注者(自治体等)向け講習・実習

目的 i-Constructionの普及
監督・検査職員の育成

講習・実習開催予定箇所数(2017年3月末時点)		
施工業者向け	発注者向け	合計
全国 281 箇所	全国 363 箇所	全国 468 箇所

施工業者向けと発注者向けの重複箇所あり

これまでに全国で36,000人以上が参加!

さらに民間企業においてもi-Constructionトレーニングセンターなどを設置し、講習・実習を実施中



7歳、5歳、3歳の子どもの成長を祝う「七五三(しちごさん)」の起源に諸説はありますが室町時代に始まり、江戸時代に関東から全国へと広まったと言われています。その当時の乳幼児死亡率は高く、無事に成長したことへの感謝と、子供の将来と長寿を願う思いから行われました。その後、明治時代に現在の形になったと言われています。



レンタルのニッケン

検索

メルマガ
配信中!

安全ニュースのご活用についてのお願い

弊社は皆様の、安全作業に関するよりよい情報をご提供するため、安全ニュースの製作・配布に取り組んでおります。下記、ご理解いただき、ご活用いただけますようお願い致します。
●安全ニュースの一部または全部において、個人・法人を問わず、弊社および引用先(各種団体など)の許諾を得ずに、いかなる方法においても、営利目的にて、無断で販売・複製・貸借・加工・加筆および、公衆送信(インターネットやそれに類した送信)などを利用して提供することを禁じております。
●弊社は、本紙の内容において如何なる保証も行いません。
●本紙内容にて発生した障害および事故についても、弊社は一切責任を負いません。

K

安全ニュースで取り上げて欲しい題材やご意見・ご要望などがございましたら eメールをご活用ください。e-mail : nikken@rental.co.jp



安全ニュース

-Safety News-

2017年11月号 No.191

株式会社レンタルのニッケン

編集・発行
安全技術部 / 営業支援部
お問い合わせ
TEL.03-5512-7411
発行日
2017年11月1日



特集 墜落・転落災害

- 建設業における墜落・転落による死亡災害発生状況
- 墜落・転落の原因と安全ポイント
- 11月18日は「土木の日」です

2017年
12月号の予告

建設業年末年始
労働災害防止強調期間

参考:建設業労働災害防止協会「平成29年度全国安全週間実施要領」、厚生労働省「職場のあんぜんサイト」労働災害統計(平成28年)

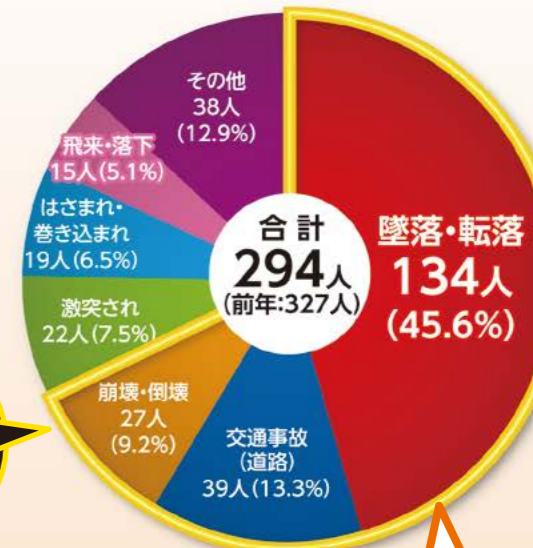
建設業における墜落・転落による死亡災害発生状況

割合(%)の合計は端数処理上100%にならない場合があります。

2016年建設業における 事故の型別死亡災害発生状況

右のグラフは、2016年の建設業における死亡災害の発生状況です。死者数は294人と前年より33人減少しました。事故の型別で最も多いのは「墜落・転落」の134人であり、全体の45.6%となります。次いで「交通事故(道路)」39人、「崩壊・倒壊」27人と続きます。上位3分類の合計200人で全体の約7割、その次の「激突され」22人と「はさまれ・巻き込まれ」の19人を含めると全体の約8割となり、特定の原因に集中して発生しているということが分かります。

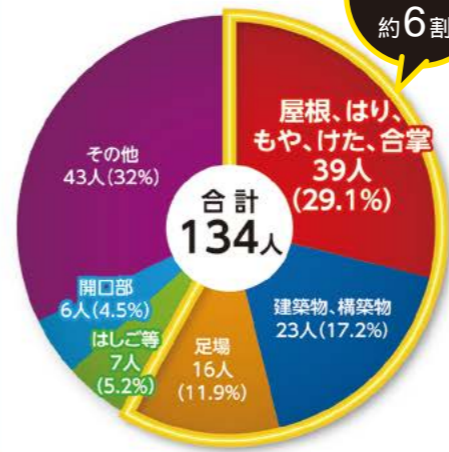
上位3分類で
全体の
約7割!



2016年建設業における墜落・転落による死亡災害発生状況

発生状況

上位3分類で
全体の
約6割!



業種別

合計134人



建設業における三大災害のひとつ「墜落・転落災害」は、業界でも様々な事故防止の活動や対策が行われ減少傾向にありますが、2016年には134人の死亡災害が発生しています。これらの多くが屋根や梁、足場、はしご、開口部からの転落となっています。中面では災害事例と作業における安全のためのポイントをまとめました。皆さんの作業所の状況にあてはめ、改善にお役立てください。裏面では、「土木の日」にちなんで情報化施工を活用したi-Construction・ICT土工について紹介しています。

★ ホームページにも掲載しております!是非ご覧ください。★

